令和３年度

学校（自己）評価報告書

岩見沢市立幌向小学校

推進校	岩見沢市立幌向小学校							
学校長	小山田　学					教職員数		21
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	計
学級数	2	2	2	1	2	1	5	15
児童数	40	39	37	35	42	36	10	239
住　所 電　話 FAX URL E-mail	岩見沢市幌向南2条1丁目180番地 0126－26－2100 0126－26－5207 http://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp/index.php/contents/item/1506527 horomuiv@mc.city.iwamizawa.hokkaido.jp							

Ⅰ　学校教育目標

□ よく考える子

自主的に学習し，よく考え創造する子どもを育成する。

□ 明るくすなおな子

明るくすなおで、思いやりのある、豊かな心の子どもを育成する。

□ 元気でたくましい子

ねばり強くやりぬく，たくましい子どもを育成する。

Ⅱ　学校経営方針

岩見沢市教育行政方針「子どもが輝く岩見沢の教育づくり」「教育は子どもを幸せにする営み」をふまえ

■学校経営の方針

「子ども目線の」※1
幌向小の教育活動

※1「学習する子どもの視点」に立つとともに教育の基本に立ち返り、子どもを中心とした、丁寧な教育活動を再確認するという意味。（呼び捨てしない、冷たい対応をしない、寄り添う、番号で呼ばない、等々）

最上位の目標は　「子どもたちが社会でよりよく生きていけるようにするために、生徒エージェンシーを育成すること」

生徒エージェンシーとは？：経済協力開発機構（ＯＥＣＤ）が重視する概念。直接の訳語が無い国が多いが、日本は文部科学省が「自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく姿勢・意欲」のことだと説明している。CF：学びの地図、学びの羅針盤

■学校経営のコンセプト

①授業「改善」から「質的転換」へ

・学校の当たり前を問い直し、新型コロナ肺炎への対応を継続しながら、物理的（環境）・心理的（ピア・サポート）に安全・安心が担保され、社会にシームレスに繋がる開かれた教育課程のもと、未来に生きる子どものため「新しい時代に対応」する「教えて考えさせる」授業の質的転換および、子どもと創る授業への移行（GIGA スクールへの準備、評価・評定の研究、学校が社会に連続的に繋がるため「接遇」の充実）

②業務改善（働きがいが高まる働き方改革へ）

・学校の当たり前を問い直し、成績評価の二期制導入や校務支援システム採用を契機として、大胆な発想で時間・コストを最小に、効果を最大

にして働き方を見直す。その結果、フィジカル・メンタルの両面の健康のうえに教職の魅力を再確認・自らの生活を充実することで「子どもと向き合うことに焦点化」する。

③地域と共に歩む学校（コミュニティ・エリア構想の加速）

・保護者・地域（場合によっては児童も）が「当事者」となり、「合意形成」する学校の創造。（学校経営方針の共有や各種事業への理解・協力）

■職員の日常の合い言葉

「私たちは今、子どもの未来に触れている」：継続

■危機管理の合い言葉

「大きく捉えて小さく収める」（最重点は個人情報保護）：継続

「見逃し三振より、空振り三振」：継続

２　教育目標

（１）本校の教育目標

◇幼・小・中の目標の系統性・関連について

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」※２

①健康な心と体　②自立心　③協同性
④道徳性・規範意識の芽生え
⑤社会生活との関わり　⑥思考力の芽生え
⑦自然との関わり・生命尊重
⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
⑨言葉による伝え合い　⑩豊かな感性と表現

※２「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」（平成 22 年 11 月 11 日文部科学省）に基づく整理。

◇本校の教育目標（＝子ども像）と豊中学校の教育目標

【よく考える子】（知）

⇒豊中教育目標（知）【知性豊かな生徒】（三つの豊）

・自主的に学習し、よく考え創造する子どもを育成する。

⇒基礎・基本を着実に身につけ、学ぶことに興味・関心を持ち、主体的に自分の夢や希望と関連付けながら、様々な変化に積極的に向き合い、他者と力を合わせて課題を解決していく子ども

（教えて考えさせる授業、各種検査結果の分析、自主的な家庭学習の充実）

【明るくすなおな子】（徳）

⇒豊中教育目標（徳）【心豊かな生徒】

・明るくすなおで、思いやりのある、豊かな心の子どもを育成する。

⇒自己の感情を統制しつつ、他人とともに協調し、想像力豊かで他人を思いやる心や感動する心、正義を愛し、いじめを許さない心等、豊かな人間性や行動様式（スキル）を身につけた子ども

（あいさつ、ピアサポート、道徳、礼状、いじめ調査）

【元気でたくましい子】（体）

⇒豊中教育目標（体）【健康（ちから）豊かな生徒】

・ねばり強くやりぬく、たくましい子どもを育成する。

⇒自己肯定感が高く、やり抜く力や健康・体力を身につけた、へこたれない子ども

（ポロラン、ポロ縄、M チャレンジ、新体力テスト、外遊びの充実、表彰伝達）

（２）求める各々の像

①豊中学校区の目指す子ども像

中学校区が目指す子ども像
「大人になること」「働くこと」に憧れを抱く子ども

高校や社会への接続
（自立・自律・成熟）

②目指す学校像

【幌向小学校】
〇児童がわくわくし、生き生きと学ぶ安全・安心な学校
〇教師が安心して働き、自己の資質・能力を高める学校
〇保護者や地域の期待に応え、地域の意見に耳を傾ける学校（コミュニティエリア構想）

【豊中学校】
〇 生徒に学ぶ喜びと感動を生み出す学校
〇 家庭や地域に開かれ、連携して教育する学校
〇 教職員の創意と活力の張る学校

③目指す子ども（児童・生徒）像

【幌向小学校】（継続）
〇よく考える子〈知〉
〇明るくすなおな子〈徳〉
〇元気でたくましい子〈体〉

【豊中学校】
〇自主的に探究する生徒〈知〉
〇思いやりがあり心豊かな生徒〈徳〉
〇共に汗する心身ともにたくましい生徒〈体〉

④目指す授業像（幌向小学校）
・子どもの声がひびく授業
・教師の声がひびかない授業（しゃべりすぎない、説明しすぎない、ファシリテーター）
※一方的な講義型の授業から脱却した姿

⑤目指す教師像（幌向小学校）
・「教える専門家」であると同時に「学ぶ専門家」である教師
・子ども、保護者、地域に信頼される人間性を身につけた教師
・働き方を見直し、自分の生活も充実させ、心身ともに元気に子どもに向き合える教師

⑥目指す教頭像（幌向小学校）
・教育目標の具現化のため、教職員の力を引き出し、まとめる教頭
・学校内外の情報を掌握し、適切に判断する教頭
・子ども、保護者、地域の方々に明るく接し、信頼と安心感を与える教頭

⑦目指す校長像（幌向小学校）
・進むべき方向を指し示すことのできる校長
・「物事を決断」する校長
・「決定したことと結果に責任」を持ち、子ども・保護者・地域に説明する校長

⑧目指す PTA 像（幌向小学校 PTA 役員会が策定）
・子どもと学校~~(教師)~~のために動く PTA（PTA には教師も含まれることから教師をカット）
・共に励み、繋がる PTA
・見守り育てる幌向地区のサポーター

３　実態

（１）児童の実態

①学習
・学習に対する関心は高く、意欲的に授業に参加し、個々の課題に進んで取り組もうとする姿勢が見られる。また、情報教育に高い関心をもつ家庭も増え、コンピュータに積極的に関わる児童も多くなっている。
・学んだ知識や技能を基に自分の考えを持つ児童が増えつつあるが、個々のコミュニケーション能力向上のためには、各場面でより自己の考えを的確に表現する力の育成が望まれる。

②体力
・児童一人一人が個々の興味・関心に応じて、日常の体育や放課後活動・休み時間の遊びなどへ、積極的に参加している。
・各種スポーツ団体や文化団体などの活動を通して健康・体力作りを進めている児童も多い。

③生活
・全体的に明るく素直で活発な児童が多く、学級の係活動や児童会活動でも、積極的に活動する児童が多く見られる。
・一人一人の子どもの違いを見極め、思いやりのある行動をとれる子どもが増えてきている。
・交友関係は学年・学級間での関わりが多いが、習い事、塾、少年団などでの交友関係も増えてきている。

・テレビやゲーム、ＰＣ等のメディアに触れる時間の長い児童が多いという実態がある。
・あいさつ（自分から）にやや課題あり⇒新　職員へのアンケートからも明らか

（２）地域・保護者の様子

（令和２年度経営計画から抜粋）

・岩見沢市の西端地区として合併した旧栗沢町・北村及び江別市に隣接し、校下は市街地区・北地区・南地区を中心に、中幌向町・お茶の水町・栗沢町北斗の一部を包含する。
・平成３年ころから住宅・人口も増加してきたが、最近では宅地造成も落ち着き、人口も変動が少ない中、児童数は減少傾向となってきている。また、従来の農村地帯というイメージは影を潜め、郊外型の住宅地域となっている。
・校区内をＪＲ函館本線、国道１２号線が走り、札幌市・江別市などの生活圏に組み込まれてきているように、交通の利便性がある一方、交通事故や防犯などに対しても、配慮していくことが重要である。
・保護者の職業は会社員・公務員などを中心に多種にわたり、経済的状況や保護者の価値観も多様化してきている。また、家庭や地域の教育への関心は高く、学校の教育活動に対しては協力的である。

（３）職員の実態

・平均年齢が高めではあるが、新しい時代の教育に向けて変化をためらわない、自己更新型の職員集団である。

４　学校教育目標達成に向けた具体的な施策

１．新しい時代に対応できる力の育成

（１）子どもが主人公になる「授業づくり」の推進（授業観の転換）

①「教えて考えさせる」授業の質的転換（「子どもと創る授業」づくりへの移行）
・理解深化問題の追求
・めあて、課題のあり方についての研究
・振り返り（リフレクション）のさらなる研究
・集団解決場面でのインタラクション（相互作用）の活性化
・評価・評定の研究　―あゆみの観点別評価形式移行の作業
・評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」についての評価法の研究

②「ピア・サポート」による「傾聴･受容･共感」の学校風土の醸成と安全・安心の担保
・ピア・サポートの教育課程への位置づけと効果の検証
・指導資料の蓄積と記録

③「学習スキル」の向上による「学びに向かう力」の育成
・豊中学校との共同研究の進展（小中接続）

（２）「組織体」としての学校の力を高める取組の一層の推進

①ＧＲ－ＰＤＣＡにもとづくカリキュラム・マネジメントに基づく教育課程の工夫・改善
・教育課程委員会の定例化（CHATWORK または校務支援システムの活用による負担減をしつつ）
・新学習要領完全実施における検証
・カリキュラムユーザーからカリキュラムメーカーへ
・学校教育目標実現に必要な教科横断的な視点による指導計画等の作成（一覧作成）
・教育課程の実施に必要な人的または物的教育資源の見える化→教育課程に明記（位置付け）
・各種調査結果やデータ等に基づく GR－PDCA サイクルの確立（ｃｆ：G=Goal、R=Research の意）
◎ゴール設定の必要性

②「学校づくり＝授業づくり」の視点に立った「学び続ける学校」への組織的な改善
・学力の現状分析と数値目標の設定及びその達成に向けた具体策の実施
・各部による各種数値目標の洗い出しと共有（学校経営プランニングシート等）

（３）小中が一貫した学力向上の取組の推進（連携から確実な接続へ）

・以下９月中学校区での研究会を中心（ピーク）に、小中連携委員会による年間を通じた取組

※事業ごと、担当の割り当てを行う

①標準学力検査、全国学力・学習状況調査による検証
②中学校区で統一した学力向上の取組の実施→豊中テスト期間と連動した家庭学習強化週間の設定等
③９年間を見通した親和的集団づくり（ピア・サポート）の推進
④長期休業中の学習会の推進
⑤進路説明会の開催（授業参観日に組み込む）
⑥特別支援教育の連携

（４）ＩＣＴの活用による指導の効率化と情報活用の実践力を高める教育の推進

①GIGA スクール構想による一人一台の端末を活用した授業づくりの推進

・校内研修への位置付け、担当者の専任

②授業のハイブリッド化に向けた日常授業の実践と授業づくりの推進

・研修テーマへの位置付け

・家庭学習を意図的に日常授業と連動させる（動画の活用等）

③その他

・プロジェクターの活用（天井つり下げ）→3 年教室（旧図書館）体育館ステージ、職員室等

・日常授業でのプロジェクターとスクリーンの活用

（５）外国語指導助手（ＡＬＴ）の積極的な活用による英語が話せる岩見沢の子どもの育成

・英語検定受験斡旋の取組（受験生の把握など、中学校との連携や分掌に位置付け）

・ALT と連携した YouTube 投稿等、動画の作成等の取組

（６）北海道教育大学岩見沢校との連携を図った効果的な教育活動の推進

・ＭまたはＮチャレンジの導入、効果の検証⇒位置付け（委員会活動）

・新体力テスト等に係わる出前授業、計測の補助員としての活用

・むいむい活用事業（他校の学校キャラクターとのコラボなど）学校キャラクター：第二小、中央小、日の出小

（７）「学び・心はぐくむ学校活動支援事業」を活用した学校力及び学力の向上

・教育課程に基づき、４月段階で各自のアイディアを生かした起案の推奨

２．豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進

（１）子どもの自尊感情・自己有用感・達成感・規範意識を育てる取組の推進

①支持的･親和的な人間関係を育む「ピア･サポート」の取組の推進

・計画的なピア・サポートの取組（教育課程に位置付け）

・職員のピア・サポートの実施⇒田中指導員の招聘

②子どもを理解し寄り添う子どもを主体とした日常指導の充実

・子どもを徹底して大切にする日常指導の再確認（呼び捨てしない、冷たい対応をしない、寄り添う、番号で呼ばない、等々）

③ふるさとに愛着を持ち岩見沢の歴史･文化･自然に誇りを持つ「ふるさと教育」の推進

・ほろむい獅子舞の導入（３年）

・ほろむい学の創設および部分実施開始（炭鉄港を組み込む）

・地域マップの作成

・JR、地元スーパー等との連携（SDGｓ）⇒地域が長く持続するよう

④命を大切にし、豊かな人間性･社会性を育てる「心の教育」の推進（道徳教育の充実）

・道徳科の校内研修充実

・自己肯定感を高める活動の研究、推進

・委員会活動の工夫

・縦割り班活動の工夫

・表彰伝達の工夫（ブログも活用）と継続

・マスコミの活用

・旅行的行事の充実と系統性の整理（学校方針の明確化）

（２）豊かな感性と創造力を育む読書活動（一斉読書、家読）の充実

・読書活動の継続（朝読書、つくしんぼの会、ブックトーク）

・新しい図書館運営の充実改善

・国語科での取組（６年生から１年生への絵本づくり、読み聞かせ）

（３）新体力テストによる体力の実態把握と体力向上のための運動の習慣化

・新体力テストの学年間の協力体制の構築や中学校との連携

・「縄跳び」の年間計画の整理

・Ｍチャレンジの推進（教育大との連携）

（４）子どもに望ましい習慣を育む「家庭での５つの約束」を基本とした取組の推進

・各種媒体や会合での啓蒙活動の充実

・長期休業中の家庭での取組目標の設定等

（５）自らの判断で命を守ることができる力を育成する健康・安全教育の推進

・各種訓練の充実

・総合防災教育計画の策定

3．育ちと学びを支える教育環境の充実

（1）「岩見沢市いじめ防止基本方針」に基づくいじめ対応の充実

- 児童会と連携した学校キャラクター「むいむい」の活用や縦割り班活動によるいじめ防止
- 校内委員会の開催
- いじめゼロの継続

（2）「教育支援センター」を活用した、いじめや不登校、悩み不安を持つ子どもや保護者への支援の充実

- 不登校にならない親和的集団づくりへの取組（ピア・サポート）
- スクールカウンセラー・SSW との日常的な連携と研修講座の依頼

（3）子ども一人一人の能力や可能性を伸ばす特別支援教育の充実

- 通級による指導や特別支援学級の意義の明確化
- 教育課程の取扱い
- 合理的配慮の提供
- 「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の充実
- 交流及び共同学習の充実
- そだちのスタートシートの整備にむけて
- 中学校等への引き継ぎの強化

（4）将来の生き方や望ましい職業観・勤労観を育むキャリア教育の推進

- キャリア教育の教育課程への位置づけ（総合的な学習の時間）
- 豊向中学校との連携
- ほろむい学（総合的な学習の時間・生活科）創設のための情報収集（豊中と連携）

（5）子どもの学ぶ場と機会の提供・複線化（S･Eスタディ、土曜英会話、学び合い広場等）

- 長期休業中の豊中学校との連携　継続
- 豊中学校と連携した漢字検定、英語検定への取組
- 教育委員会主催事業の周知活動と斡旋

（6）教育研究所の調査・研究及び養成・研修機能の強化

- 計画的な教育研究所主催の研修への職員参加
- 指導案集の活用（研究所所蔵）
- 学習動画の視聴（作成の参考に）
- 研究所施設・設備（新体力テスト用具等）の活用

（7）教職経験に応じた必要な資質・能力の養成による「教えるプロ」の育成

- 研修会参加奨励（外部へ年１回以上）
- 校内研修の充実
  校内研究課題のほか、年度初めの確認事項（学習規律、成績評価、授業方法、安全対策等）
- 校内研修における、校外研修内容の還流コーナーの継続と充実
- 若手教員育成の仕組みづくり
- 職員全員の自己目標シートの見える化と普段の見直し（校長室掲示）
- 管理職による日常的な授業参観とフィードバック

（8）地域性に即し、特色ある学校づくりや適正な規模による学校教育のための小･中一貫教育の推進

- ほろむい学（総合的な学習の時間・生活科）の創設準備
- 小中連携委員会の定例化と充実
- 学校運営協議会からの評価

4．信頼と期待に応える開かれた学校づくり

（1）子どもを徹底して大切にする教育に資する「学校における働き方改革」の推進

- 成績評価の二期制実施（あゆみ所見欄回数減）
- 評価方法の変更（観点別評価）
- 校務支援システムの運用および効果的な活用（出退勤システム活用）
- 職員会議の見直し（持ち方、時間、時期、回数、資料配付の時期と方法）
- 旅行的行事の見直し
- 組織改編による業務量の平準化、分掌内係業務の再配置
- 新たな課題（ＬＧＢＴ、がん教育、観光教育など〇〇教育）への対応
- 体力向上に関わる年間プランニングシートの作成による見える化
- ペーパーレス化の推進（職員会議の議題、係提案資料の蓄積およびデータ化等）
- 係の統廃合、業務の平準化のしくみづくり
- 環境整備
- 学習指導員、スクールサポートスタッフの効果的・計画的な活用
- 外部人材の登用（学生含む）
- デジタル化等の検討（各種プリント PDF 配布、家庭環境調査等データ配付、メールアプリによる欠席遅刻連絡、各種アンケートネット実施等）

（・将来的に ZOOM 等による家庭訪問の可能性）

・校務支援システムC4ｔｈとCHATWORK、ネットワークフォルダ（校内LAN）の棲み分け
・「学校の5S」着手による業務改善（１整理　２整頓　３清掃　４清潔　５しくみ）（R３年度　職員室：更衣室の改善）

（２）未来を生き抜くために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現
・全校集会などで児童に学校経営方針説明
・ＰＴＡ総会、懇談会で学校経営方針説明
・青少年育成連絡協議会等で学校経営方針説明
・グランドデザイン保護者・地域配布
・PTA ブログのより一層きめ細かな活用とプライバシーポリシーの設定
・外部人材の一覧作成と教育課程への記載
・オンラインで活用可能な人材の発掘と登録
・保護者説明会の有効活用
・各種行事への協力要請
・地域行事への職員参加
・学校評価項目の見直し
・アンケートについての研究（アンケートとは何か、望ましい方法は）
・学校評価の集約方法の工夫（インターネットなど）
・民生委員・児童委員との懇談・授業参観の充実

（３）学校･家庭･地域が連携･協働した「学校運営協議会（コミュニティ･スクール）」「中学校区学校運営協議会（コミュニティ･エリア）」設置
・令和３年度中の中学校区学校運営協議会の設置

（４）学びの連続性を大切にした教育活動の推進（保･幼･小･中･高･大の連携）
・豊中による進路・入試説明会の実現
・「とことん」や幼稚園との連携強化（幼稚園の参観、スタートプログラムの研究）
・出前授業の増加（現状英語科）
・緑陵高校との連携
・大学との連携（Mチャレ、新体力テストその他）

（５）子どもを見守り、安全･安心な環境を確保する取組
＊危機管理の合い言葉
「大きくとらえて、小さくおさめる」：救急車、警察への連絡をためらわない
・安全まもり隊、青少年育成協議会との連携、情報交換
・個人情報保護の一層の推進（事故防止）⇒規定の再確認（手渡し、複数対応、面前確認）
・各種お便り、ブログ記載のためのプライバシーポリシーの作成
・一斉メールの複数職員の操作
・情報セキュリティ対応（個人USB の持ち込み禁止）
・引き渡し訓練の検討
・各教室に虫網とスズメ蜂用殺虫剤完備
・一斉メール１００％加入（職員も）
・書類廃棄のサイクル、期間の係への位置づけ（参考―生活係の安全点検）
・児童アンケートの自由記載欄について回答

５　学校教育の基調《社会背景等解説》

2000 年に小渕内閣の下で開催された教育改革国民会議において、日本の学校教育に対し「公立学校はお客が来ることが決まっているまずいラーメン屋のようなもの」と揶揄されたことがある。また、ある人が「100 年前の教師が現代にやってきたとしても何ら問題なく授業を行えるだろう」と指摘されるように教育現場は良くも悪くも変化のない、いわば“聖域”としてしばしば取り上げられてきた。反対に、100 年前の医者が現代に来ても、最先端の理論や医療機器に基づく現代医療には、手も足も出ないであろう。しかし、教師は黒板とチョークだけで授業が成立する、ということを皮肉っているのである。俗に言う「チョーク＆トーク」というフレーズを聞いたことはないだろうか。

高度に情報化され、AI などが声高に叫ばれる時代ではあるが、これまでも「教育は人なり」と言われるように、学校教育の直接の担い手である教師の果たすべき役割は、今後も引き続き極めて重要である。特に Society 5.0 の学校教育においては、「教師」にはこれまでの児童生徒を教え導く役割に加え、今後、学びの支援者という役割が付加されることになる。教師は、カリキュラムユーザーから、カリキュラムメーカーとなる意識の転換が求められ、ティーチャーの役割のみならず、ファシリテーター（調整役）としての役割、将来はラーニングオーガナイザーの役割が求められる。コンテンツ（内容）を教え込む時代から、それらを活用して課題を見つけていく、また、解決の難しい問題に折り合いをつけるといった能力である「コンピテンシー（資質能力）」の育成に大きく舵が切られることになる。

このようにわが国が人口減少期を迎え、労働力が外国から流入し、社会の様相が大きく変わっていくなかで、これからの学校教育のあり方を継続して見直し、授業改善および学校づくりを進めることが喫緊の課題である。

Ⅲ　評価結果：教職員自己評価

●実施：令和３年１２月２３日　　● 対象：幌向小学校教職員 18 名

問	質　問	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	平均値
①	学校は、子ども一人ひとりの個性や能力を理解し、十分に伸ばす取り組みをしていると思いますか。	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%	3.55
②	学校の施設設備は整っており、事故防止に配慮していると思いますか。	5.6%	33.3%	38.9%	22.2%	2.22
③	学校は便り等を通して保護者や地域に積極的に情報を発信していると思いますか。	100%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0
④	学校は、吹雪や台風等、緊急時の連絡体制を整えていると思いますか。	88.9%	11.1%	0.0%	0.0%	3.88
⑤	学校の行事や参観日等は参加しやすいように工夫されていると思いますか。	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	3.66
⑥	学校では各教科で基礎的な学力が身に付くような教育活動がなされていると思いますか。	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%	3.55
⑦	学校は、子どもの持つ悩み（交友関係を含めて）や問題について適切に対応していると思いますか。	72.2%	27.8%	0.0%	0.0%	3.72
⑧	学校では、子どもに命を大切にする心や社会のルールを守るような教育活動がなされていると思いますか。	72.2%	27.8%	0.0%	0.0%	3.72
⑨	学校では、健康な体の育成や体力の向上に向けての教育活動がなされていると思いますか。	50.0%	42.9%	0.0%	0.0%	3.57
⑩	学級の子ども達は、学校が楽しいと感じていると思いますか。	50.0%	50%	0.0%	0.0%	3.5
⑪	学級の子ども達は、「自分からあいさつできる子」に育っていると思いますか。	55.6%	38.9%	5.6%	0.0%	3.5
⑫	学級の子ども達は、何でも話してくれていると思いますか。	16.7%	55.6%	27.8%	0.0%	2.88
⑬	学級の子ども達には、国語の学力がついていると思いますか。	5.6%	88.9%	5.6%	0.0%	3.0
⑭	学級の子ども達には、算数の学力がついていると思いますか。	11.1%	66.7%	22.2%	0.0%	2.88
⑮	学級の子ども達の家庭での学習時間は十分と思いますか。	16.7%	61.1%	16.7%	5.6%	2.88
⑯	学級の子ども達は、テレビ視聴やゲームの遊びすぎに気をつけ、規則正しい生活をしていると思いますか。	5.6%	44.4%	44.4%	5.6%	2.5

評価結果：保護者アンケート

●実施：令和３年１２月２０日　　●対象：幌向小学校保護者 184 戸（回収率：90.2%）

問	質　問	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	平均値
①	学校は、子ども一人ひとりの個性や能力を理解し、十分に伸ばす取り組みをしていると思いますか。	44.0%	44.6%	11.4%	0.0%	3.32
②	学校の施設設備は整っており、事故防止に配慮していると思いますか。	27.9%	36.4%	28.5%	7.3%	2.84
③	学校は便り等を通して保護者や地域に積極的に情報を発信していると思いますか。	67.3%	27.9%	4.8%	0.0%	3.62
④	学校は、吹雪や台風等、緊急時の連絡体制を整えていると思いますか。	81.9%	16.9%	1.2%	0.0%	3.80
⑤	学校の行事や参観日等は参加しやすいように工夫されていると思いますか。	56.6%	34.3%	7.8%	1.2%	3.46
⑥	学校では各教科で基礎的な学力が身に付くような教育活動がなされていると思いますか。	48.2%	42.7%	9.1%	0.0%	3.39
⑦	学校は、子どもの持つ悩み（交友関係を含めて）や問題について適切に対応していると思いますか。	41.2%	42.4%	13.9%	2.4%	3.22
⑧	学校では、子どもに命を大切にする心や社会のルールを守るような教育活動がなされていると思いますか。	53.6%	35.5%	9.0%	1.8%	3.40
⑨	学校では、健康な体の育成や体力の向上に向けての教育活動がなされていると思いますか。	50.6%	42.2%	6.0%	1.2%	3.42
⑩	お子さんは、学校が楽しいと感じていると思いますか。	61.8%	33.3%	3.6%	1.2%	3.55
⑪	お子さんは、「自分からあいさつできる子」に育っていると思いますか。	38.8%	43.0%	15.2%	3.0%	3.17
⑫	お子さんと先生は、いろいろな話ができていると思いますか。	39.4%	45.5%	13.9%	1.2%	3.23
⑬	お子さんには、国語の学力がついていると思いますか。	27.1%	47.0%	21.1%	4.8%	2.96
⑭	お子さんには、算数の学力がついていると思いますか。	30.7%	48.2%	15.1%	6.0%	3.03
⑮	お子さんの家庭での学習時間は十分と思いますか。	10.8%	331.9	44.6%	12.7%	2.40
⑯	お子さんは、テレビ視聴やゲームの遊びすぎに気をつけ、規則正しい生活をしていると思いますか。	13.3%	31.9%	37.3%	17.5%	2.40
⑰	お子さんの学力や努力が適切に評価されていると思いますか。	49.4%	46.4%	4.2%	0.0%	3.45

評価結果：児童アンケート（１２月）

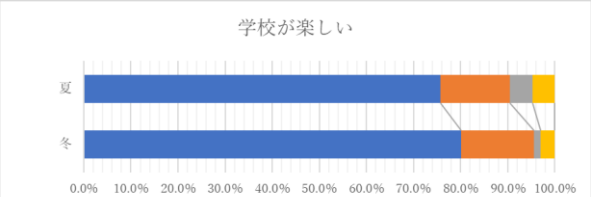
●実施：令和３年１２月２２日　　●対象：幌向小学校児童 239名（回収率：９５%）

問	質　問	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	平均値
①	学校が楽しいと感じていますか	80.1%	15.5%	1.3%	3.1%	3.7
②	毎日の授業は楽しいですか	69.9%	21.7%	2.2%	6.2%	3.6
③	国語の勉強がよくわかりますか	62.4%	27.4%	1.8%	8.4%	3.4
④	算数の勉強がよくわかりますか	69.9%	21.7%	3.1%	5.3%	3.6
⑤	休み時間、友だちと仲良く過ごしていますか	85.4%	8.4%	4.9%	1.3%	3.8
⑥	自分からあいさつができますか	68.6%	24.3%	2.7%	4.4%	3.6
⑦	きまりを守って生活していますか	59.3%	30.1%	6.6%	4.0%	3.4
⑧	学校行事に楽しく取り組んでいますか	86.3%	10.6%	1.3%	1.8%	3.8
⑨	係や当番、児童会活動で友だちと協力して活動していますか	81.0%	15.5%	2.2%	1.3%	3.7
⑩	係や当番、児童会活動で最後まで責任をもって取り組んでいますか	77.9%	19.0%	0.9%	2.2%	3.7
⑪	先生にいろいろな話をすることができますか	61.5%	24.8%	6.6%	7.1%	3.4
⑫	毎日、〇分間以上の宿題や家庭学習に取り組んでいますか	46.0%	22.6%	12.4%	19.0%	3
⑬	テレビの見すぎやゲームのやりすぎに注意していますか	69.2%	20.0%	4.5%	6.3%	3.5

児童の変容：年度内変化

本校では、児童を対象とした意識調査を夏と冬に実施しました。質問項目は13あり、以下、項目ごとに分析していきます。

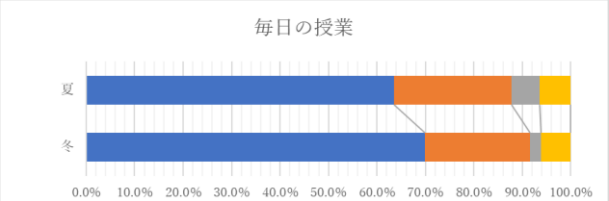
① 学校が楽しいと感じている



	冬	夏
そう思う	80.1%	75.7%
少し	15.5%	14.8%
あまり	1.3%	4.8%
思わない	3.1%	4.8%

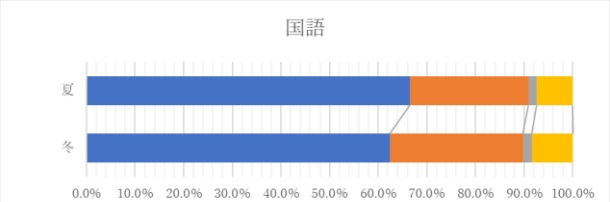
約95%の児童が楽しいと感じている。「そう思わない」と回答した児童への配慮が必要と考えます。

② 毎日の授業が楽しい



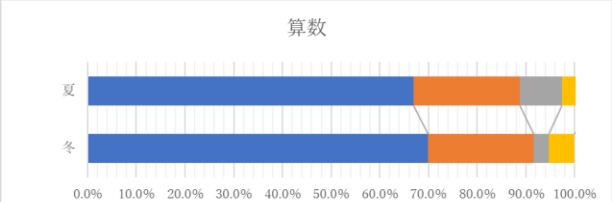
	冬	夏
そう思う	69.9%	63.5%
少し	21.7%	24.3%
あまり	2.2%	5.7%
思わない	6.2%	6.5%

③ 国語の勉強がよくわかる



	冬	夏
そう思う	62.4%	66.5%
少し	27.4%	24.3%
あまり	1.8%	1.7%
思わない	8.4%	7.4%

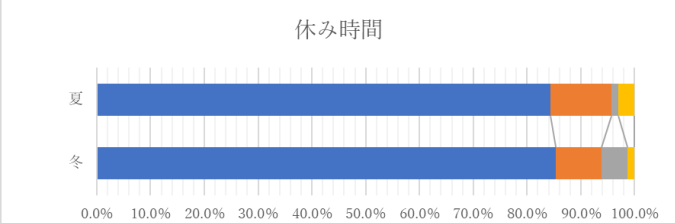
④ 算数の勉強がよくわかる



	冬	夏
そう思う	69.9%	67.0%
少し	21.7%	21.7%
あまり	3.1%	8.7%
思わない	5.3%	8.7%

国・算ともにポジティブ回答が8割を超えていますが、「よくわからない」と、困り感を持っている児童も増えました。わからないままにさせないこと、質問できる環境づくりなど、取り組んでいく必要があります。

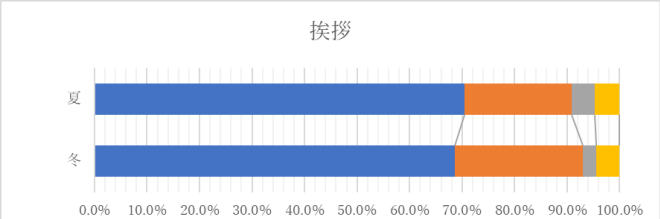
⑤友だちと仲良く過ごしている



	冬	夏
そう思う	85.4%	84.3%
少し	8.4%	11.3%
あまり	4.9%	1.3%
思わない	1.3%	3.0%

コロナ禍なので、一人で静かに本を読んでいる児童もいますが、体育館や外などで体を動かし遊ぶ姿も見られました。

⑥ 自分からあいさつができる

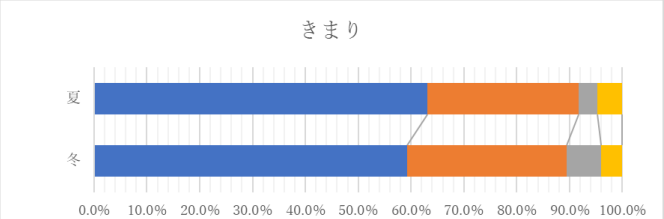


	冬	夏
そう思う	68.6%	70.4%
少し	24.3%	20.4%
あまり	2.7%	4.3%
思わない	4.4%	4.8%

昨年度より挨拶をする児童が増えたが、まだまだ低い結果となっている。

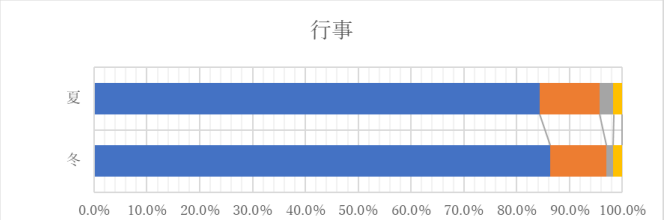
次年度は90%を目指し、教職員から進んで挨拶をする、目を見て挨拶をするなどに気を付け、取り組む予定です。

⑦きまりを守って生活している



	冬	夏
そう思う	59.3%	63.0%
少し	30.1%	28.7%
あまり	6.6%	3.5%
思わない	4.0%	4.8%

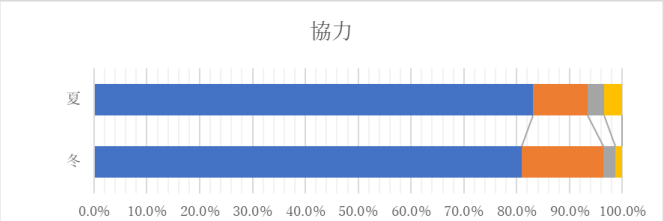
⑧学校行事に楽しく取り組んでいる



	冬	夏
そう思う	86.3%	84.3%
少し	10.6%	11.3%
あまり	1.3%	2.6%
思わない	1.8%	1.7%

運動会や学芸会、各旅行行事が保護者や施設の方々の協力で実施することができました。

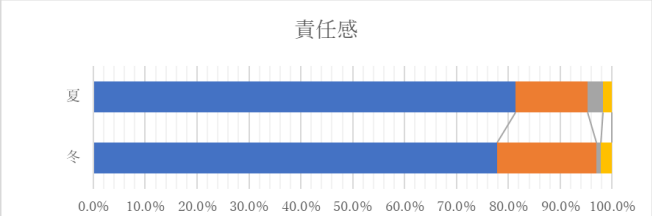
⑨ 友だちと協力して活動している



	冬	夏
そう思う	81.0%	83.0%
少し	15.5%	10.4%
あまり	2.2%	3.0%
思わない	1.3%	3.5%

縦割り清掃も再開し、交友関係も広がったようです。高学年がお掃除のことを丁寧に教えたり、仲良く交流したりする姿がほほえましかったです。

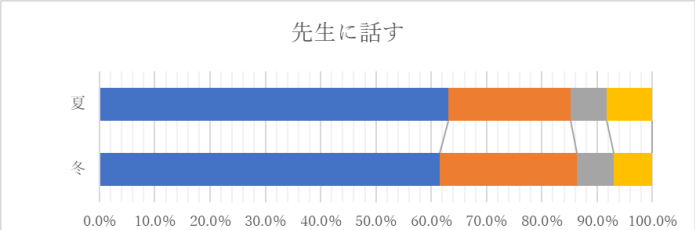
⑩ 最後まで責任をもって取り組む



	冬	夏
そう思う	77.9%	81.3%
少し	19.0%	13.9%
あまり	0.9%	3.0%
思わない	2.2%	1.7%

児童のほとんどが実感できているように、清掃、委員会活動など自分のすべきことをしっかり行っていました。

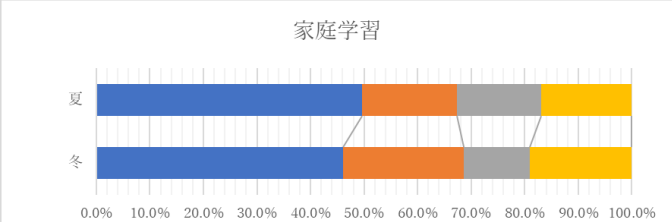
⑪ 先生にいろいろな話をする



	冬	夏
そう思う	61.5%	63.0%
少し	24.8%	22.2%
あまり	6.6%	6.5%
思わない	7.1%	8.3%

約15%の児童が伝えられずにいることがわかりました。一日の学校生活で、ゆっくり話すという時間の余裕が、子どもも教員も少ないことも要因かもしれません。

⑫必要な家庭学習に取り組んでいる



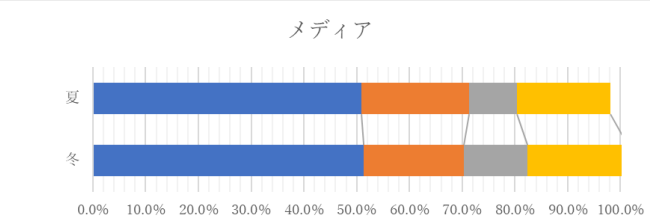
	冬	夏
そう思う	46.0%	49.6%
少し	22.6%	17.8%
あまり	12.4%	15.7%
思わない	19.0%	17.0%

家庭での学習時間不足を感じているのは、保護者も

教職員も同じです。

習い事にも積極的な児童も多いため、時間が生み出せないことも要因の一つと考えますが、次年度は家庭学習の取り組み方について対策を考えているところです。

⑬テレビやゲームの時間に注意している



	冬	夏
そう思う	51.3%	50.9%
少し	19.0%	20.4%
あまり	11.9%	9.1%
思わない	19.0%	17.7%

家庭での学習時間不足と動画視聴時間が気になる結果となっていますが、タブレット学習をしている児童もいるので、今後の質問内容を吟味しなければならないと思いました。

自分のスマホ、タブレット所有率も高いことや、コロナ禍ゆえの結果かとも考えています。

児童の変容：経年変化

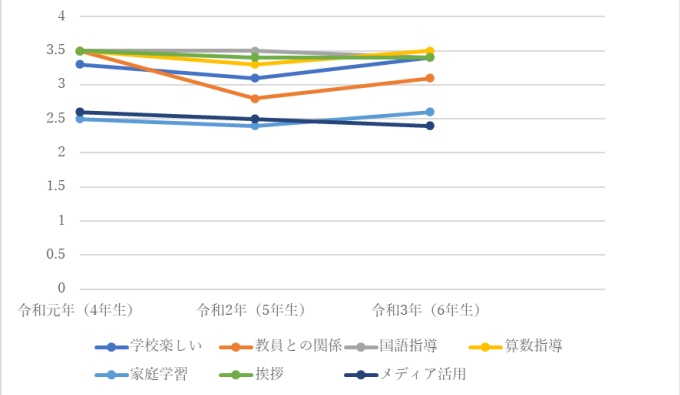
学年が上がるにつれ、子ども達の意識がどのように変化してきたかを明らかにします。

本校では、微調整を繰り返しながらも基本的な質問項目を変更せずに児童の意識調査を行ってまいりました。蓄積したデータを比較することで、子ども達の育ちの様子を入学年度別のグラフに表します。

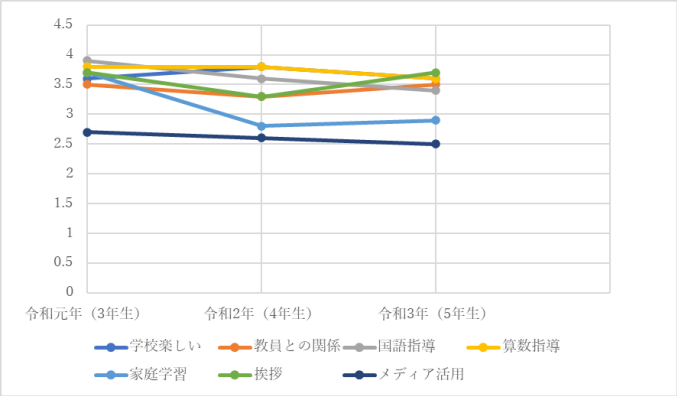
本項で採用する質問項目は「学校が楽しいと感じていますか」「先生にいろいろな話をすることができますか」「国語の勉強がよくわかりますか」「算数の勉強がよくわかりますか」「毎日、〇時間以上の宿題や家庭学習に取り組んでいますか」「自分からあいさつができますか」「テレビの見すぎやゲームのやりすぎに注意していますか」です。

なお、1・2年生対象のアンケートは「はい」「いいえ」の2段階での回答を求めており、詳細な比較は難しいと考えます。5 年生以上の結果のみとします。

現 6 年生（平成 28 年度入学）



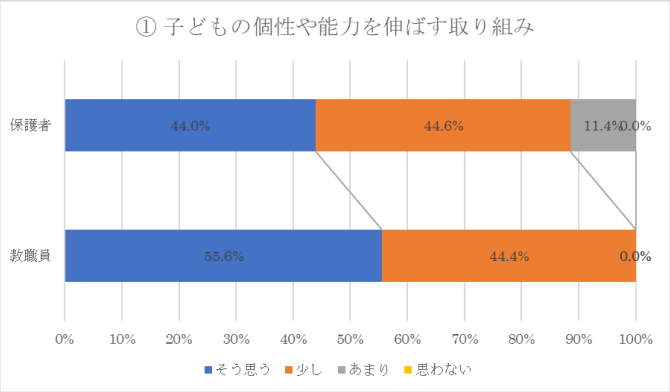
現 5 年生（平成 29 年度入学）



学校の姿

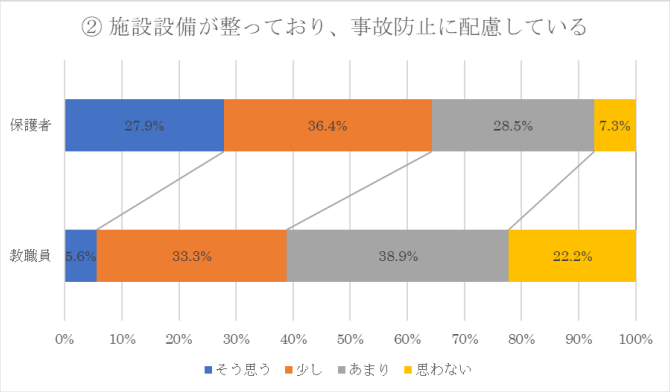
保護者アンケートと教職員自己評価に、本校の学校体制について質問する項目を設定しました。

① 子どもの個性や能力を伸ばす取り組み



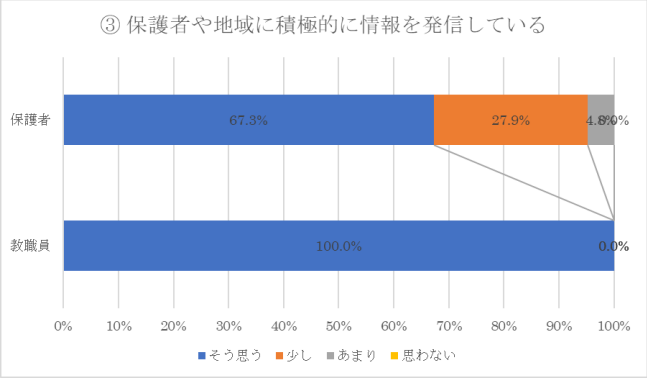
教職員の意識と保護者の感じ方に大差がありました。個性の伸長をはかる取り組みを考えながら学級経営をする必要があります。

② 施設設備が整っており、事故防止に配慮



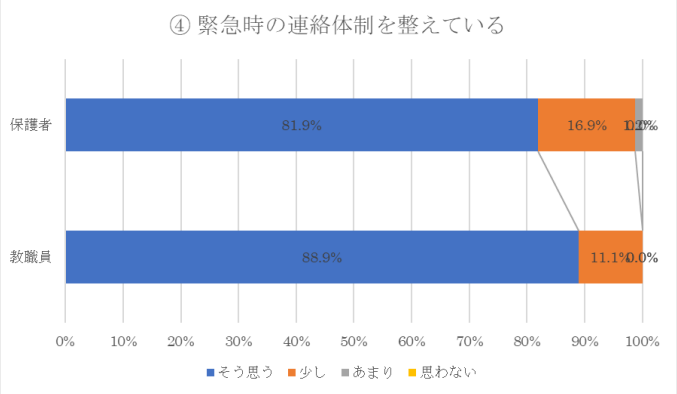
校舎の構造上、2階児童玄関につながる階段がすべりやすいこと、雨漏りすることが多々あり、廊下歩行に支障があるなど色々問題点があると考えます。

③ 積極的に情報を発信している

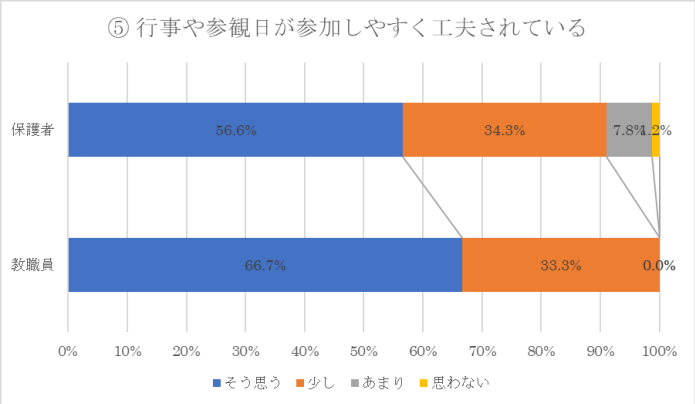


管理職による、ブログ毎日更新による効果と考えます。

④緊急時の連絡体制を整えている

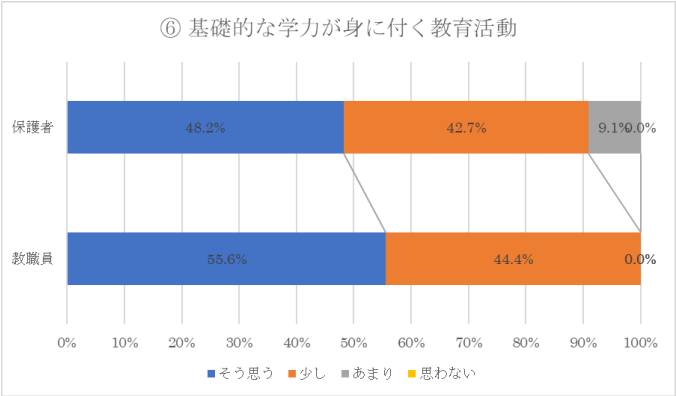


⑤行事や参観日が参加しやすいい

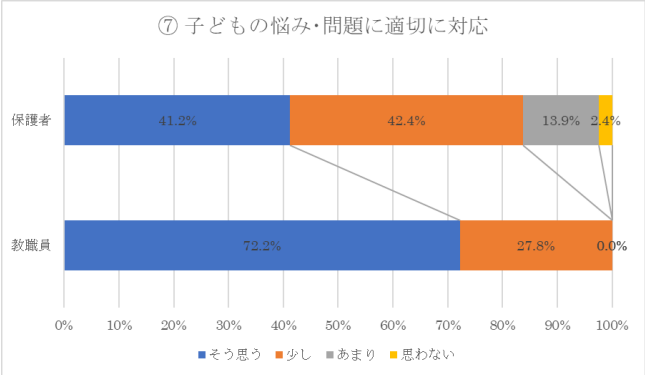


保護者が参加しやすいように･･･と、考えながら行事日程をくみましたが、保護者にとっては参加しづらかった面もあったのだとわかりました。今後もPTA 三役の方々を中心に、お知恵を拝借しながら進めていこうと思います。

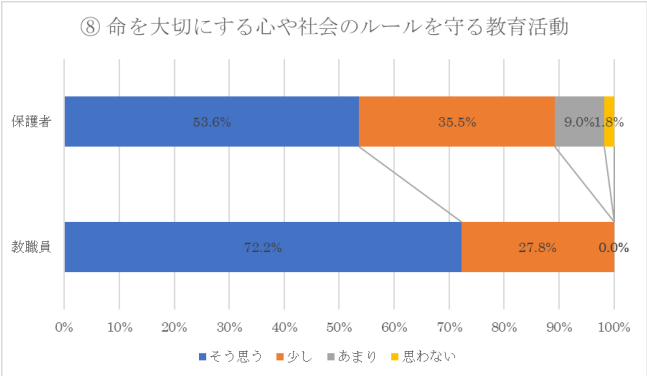
⑥基礎的な学力が身に付く教育活動



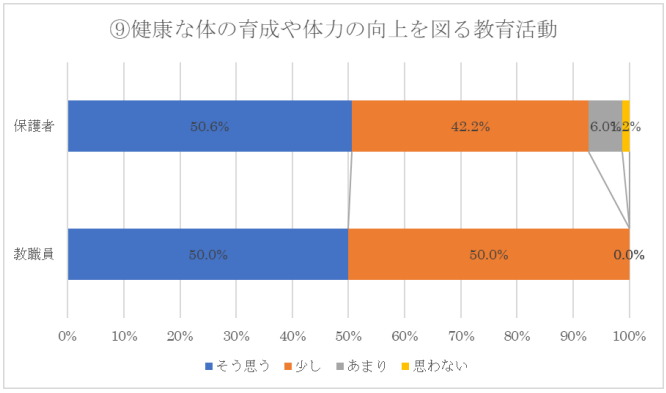
⑦子どもの悩み・問題に適切に対応

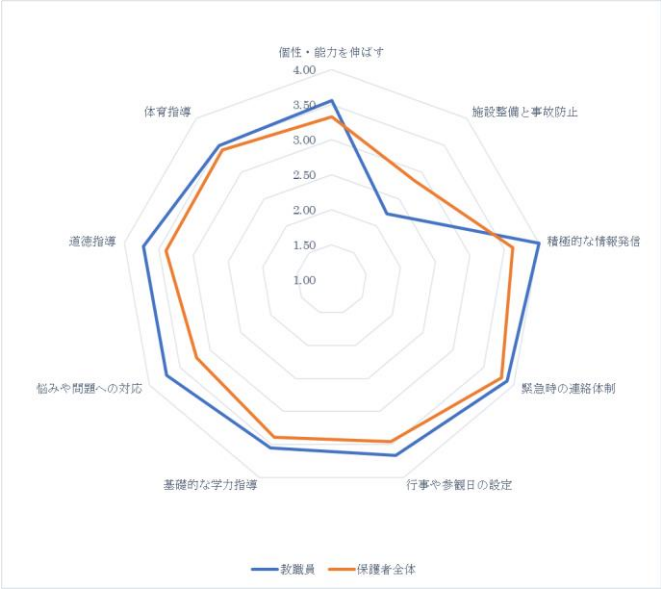


⑧ 命を大切にする心や社会のルールを守る教育活動



⑨健康な体の育成や体力の向上を図る教育活動





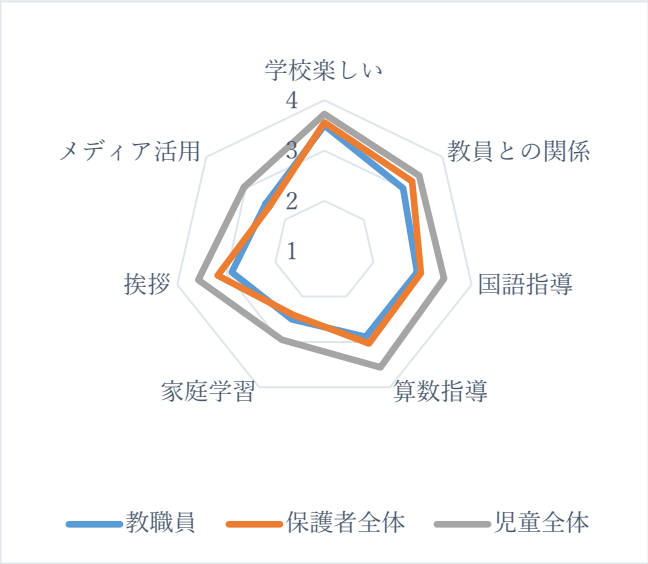
保護者と教職員の意識が一回りほどの差が見られたが、ほぼ一致している結果でした。

問題視しなければならない項は、教職員は子どもに寄り添っている意識をもっているものの、保護者にとってはもう少し丁寧な対応をしてほしいと願っていることです。児童との関わり方、対応をもっと丁寧にしていかなければならないと考えます。

子ども達の姿

子ども自身・保護者の視点・教職員の視点

保護者アンケート・教職員自己評価には、児童アンケートの一部と同じ質問項目を設定しています。それらを活用し、子ども達が自分自身を、保護者が我が子を、教職員が教え子をどのように見ているかを比較してみます。



児童の自己評価は概ね高めですが、子ども達が希望と自己有用感を高い水準で持っていることの表れと解釈いたします。

テレビやゲームへの意識について、保護者・教職員と子ども達の認識が異なっている可能性が見られます。

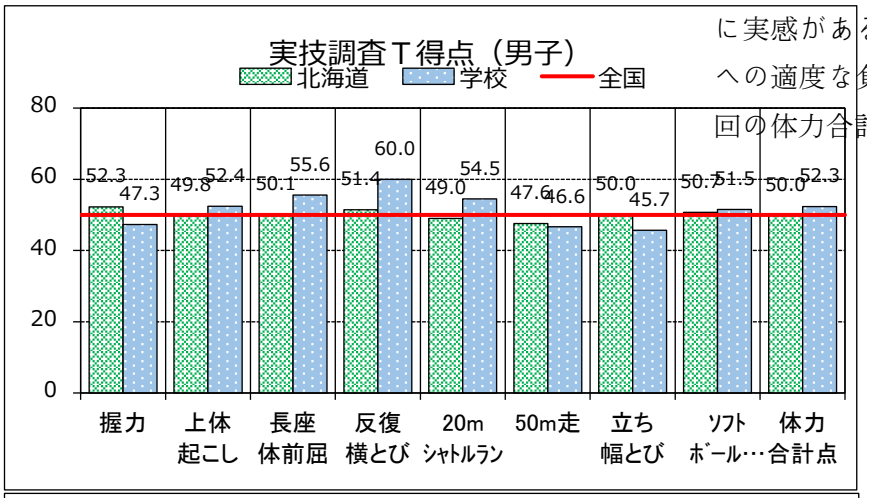
ここ数年、タブレット学習や YouTube で配信されている勉強方法を見ているなど、メディアの活用が多様化されています。

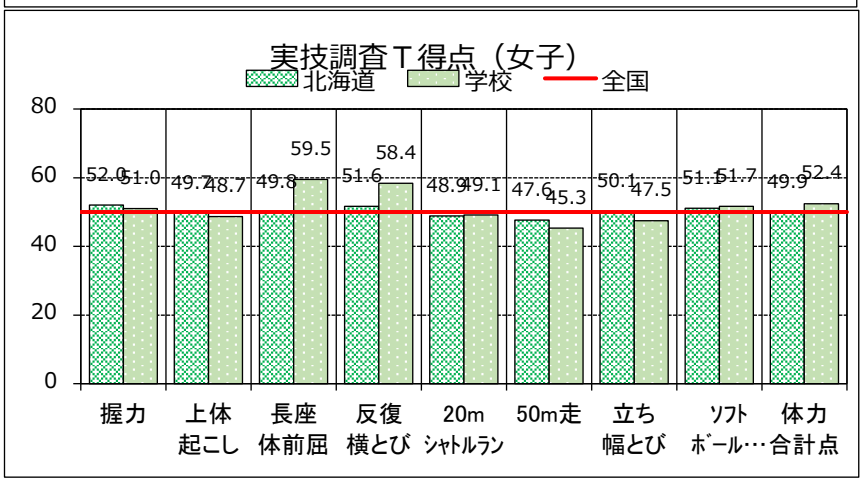
もしかすると、保護者・教職員は「趣味趣向のテレビ、動画を観過ぎ」「ゲームをやり過ぎ」と考えているのに、子ども達は「十分やり過ぎないように気を付けている」「勉強しているのに・・・」と考えているのかも知れません。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査　結果報告

体育専科　　竹内　一裕

１．実技調査結果





１００％（全員）の児童が「体育における運動量」に実感があ
への適度な
回の体力合

体力合計点は、男女ともに北海道・全国を上回りました。

男女ともに長座体前屈や反復横跳びにおいて特に正の有意差が見られました。また男子は、２０ｍシャトルランにおいて正の有意差が見られました。

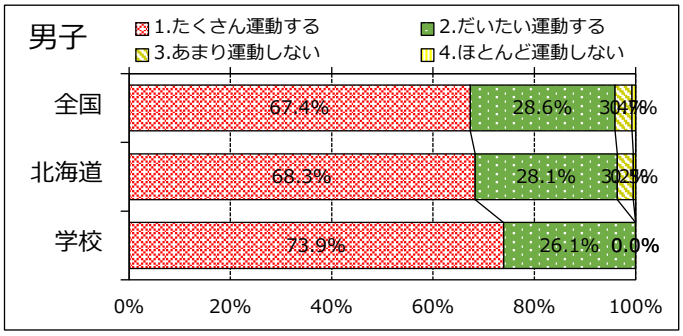
上記項目は、柔軟性・敏捷性・全身持久力を測定するものであり、本校児童はこれらの能力が高いということを示しています。

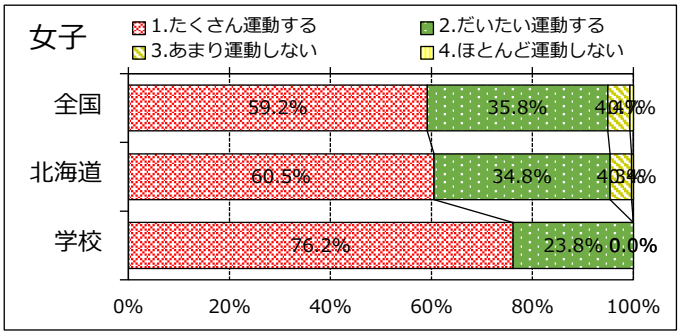
一方、男女ともに５０ｍ走と立ち幅跳びで負の有意差が見られました。これらは、疾走能力・跳躍能力・筋パワーを測定するものであり、今後は体育の授業等においてこれらを高める学習活動の展開が求められます。しかしながら、同じ筋パワー項目である上体起こしは大きな有意差が見られないことから、筋力的な問題というよりも「自分の体の使い方」に課題があり、自分の体の操作性を向上させることにより、より速く走ったり、より遠くに跳ぶことができたりすると考えます。

２．体育授業の実際とアプローチ

（１）体育授業時間の運動量

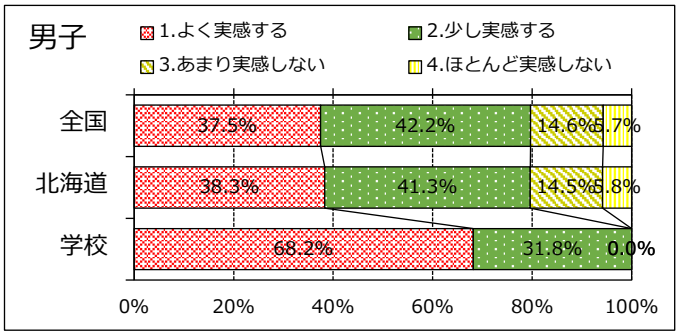
Q11．体育の時間はたくさん運動しますか？

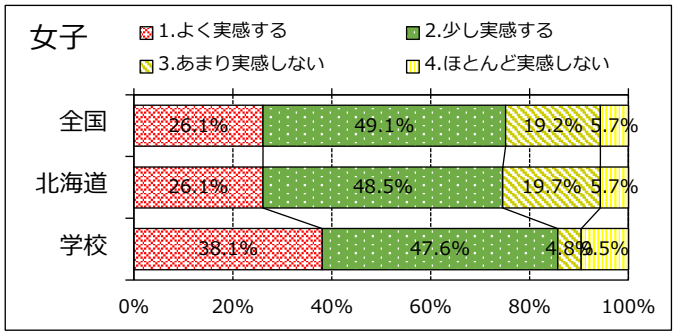




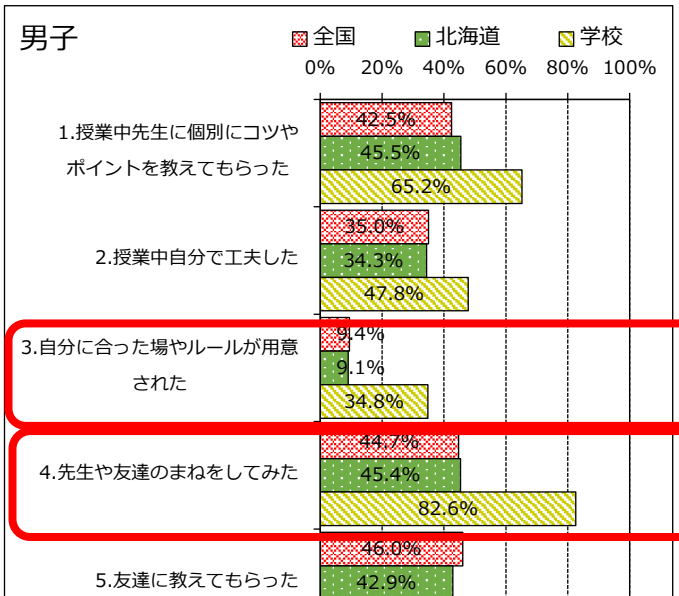
（２）授業の質的転換

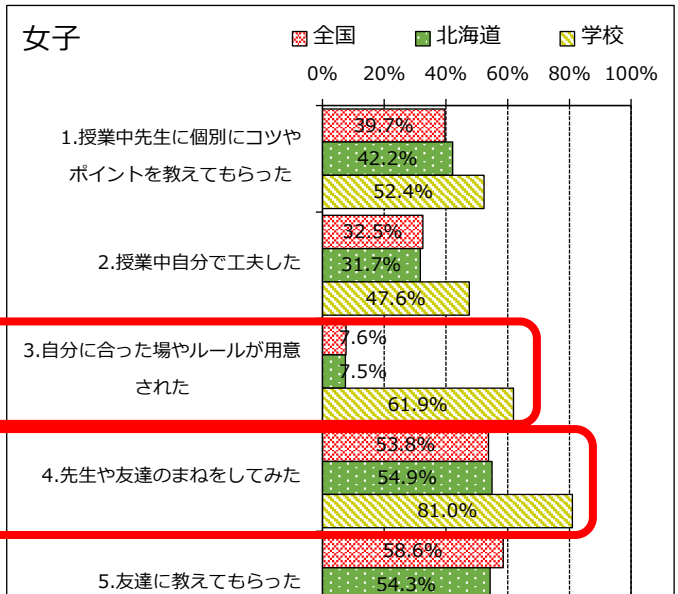
Q12．自分の動きの質が向上していることを実感することがありますか？





Q13．これまでの体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ、理由はどのようなもの　　のがありましたか？





比べ、男女ともに大きな有意差があったのは上記３点（枠囲み）。場の設定、模倣、そして自分の動きの客観視です。

① 場の設定

単元毎に、難易度別の場や目標を設定し児童が取り組みやすい環境を提供した。児童が自分の興味関心と照らし合わせながら学習課題に意欲的に取り組む姿が見られました。

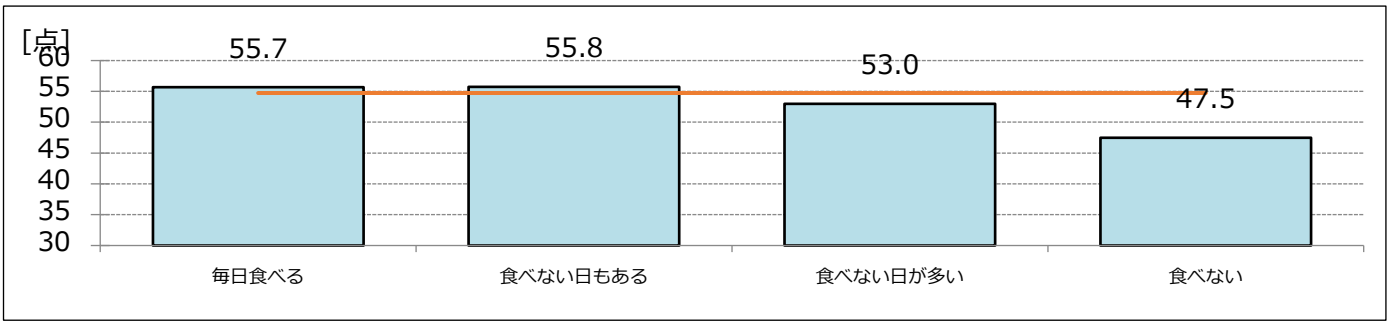
② 模倣

デモンストレーションを授業の導入で行った。ゴールを示すことで、目標が明確となりました。

③ 動きの客観視

GIGA スクール構想から、本校にも iPad が一人１台導入され、主要教科のみならず芸体系教科でもタブレットを積極的に活用しています。体育科においても、タイムを計測したりフォームを撮影して自己修正したりするなど積極的にタブレットを活用しました。例えば、走り高跳びの学習では「なぜ引っかかってしまうのか」「どこを修正すれば跳び越えられたのか」などを、映像を確認しながら学習を進めました。

上記３点を盛り込んだ授業は、PDCA サイクルによる正のスパイラルを生み出し、児童が自らを高めたり、児童同士で高め合ったりする姿が随所で見られました。つまり ICT を活用した授業の質的転換が、児童の「わかる」「できる」実感を生み出したと考えることができます。



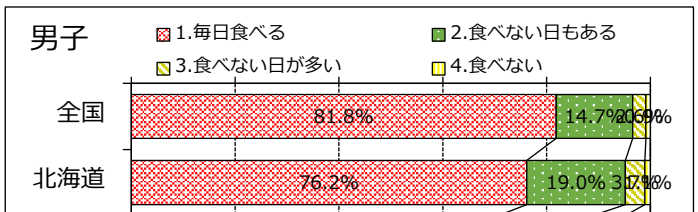
※横線は校内の単純平均値

上の表は、本校児童の体力合計点と朝食摂取についてクロス集計を行った結果です。朝食の摂取率が低いほど、体力合計点が低いことがわかります。つまり、「朝食を摂取することが、体力の維持や向上に欠かせない要素の一つである」ということができます。数値からも、朝食の重要性はしっかりと結果として表れていることがわかります。

３．生活習慣と運動

（１） 朝食にスポットを当ててみる

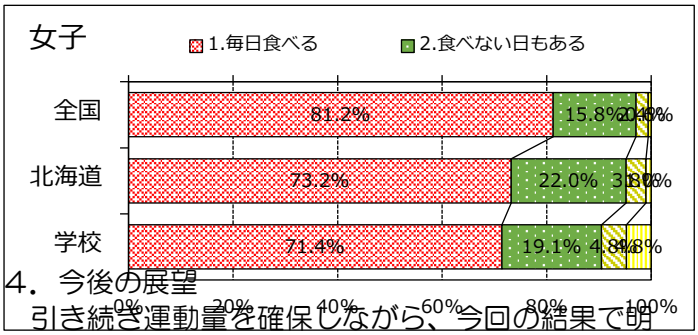
Q5. 朝食は毎日食べますか。(学校が休みの日もふくめます)



Q12 では、男女ともに自分の動きの質の向上を実感していることがわかりました。

では、その要因は何だったのでしょうか。Q13 にその理由が数値として表れています。北海道・全国と

や全国に比べ、男女ともに数値が低いことがわかります。朝食を毎日摂取しない児童が、１クラスに１０人中３～４人いる割合です。２０人のクラスであれば６～８人、４０人近いクラスであれば単純計算で１２人～１６人となります。



４．今後の展望

引き続き運動量を確保しながら、今回の結果で明らかとなった「疾走能力や跳躍能力」に対して、体育の授業で明確なアプローチをすることで改善していけるものと考えます。具体的には、例えば疾走能力についてはフォームの修正、跳躍能力については全身の使い方や跳びはねる角度や高さなどを動画撮影し、自己改善していく方法などが考えられます。

左のグラフは、本校の朝食摂取の実態です。北海道